



2号

1997年 春・夏号

イグナチオ教会と 愉快的仲間たち

「もはや二人ではなく一体 (One) である」 マタイ19・6

本号の主なトピック

- 司祭からのメッセージ
- 特集 教会ツアーガイド
- お世話になったヘルパー紹介
- 修了者からの便り
- 教会からのお知らせ

皆さんに大切なお知らせがあります！

新聖堂は1998年1月に完成

新聖堂の完成を心待ちにされている方もきっと多いかと思いますが、新聖堂の完成が半年延びて1998年1月中旬になりました。その理由は、創刊号の「生まれ変わる聖堂」でご紹介した難しい設計にあります。祭壇に向かう12本の柱がそれぞれ

れに違い、天井の構造が複雑なため、作業に時間がかかったり、高度な技術を持った人の確保が大変だったり、いろいろと苦勞されているようです。完成までもう少し楽しみにお待ちください。



現聖堂において皆さんのための行事を計画しました

クラス修了者を対象とした「結婚感謝ミサ」を1997年10月12日(日)に、セミナー修了者を対象とした「結婚感謝の集い」を、1997年11月30日(日)に計画しまし

た。現聖堂とのお別れを兼ねて皆さん是非いらしてください。きつとなつかしい方たちと会えると思いますよ！時間はともに14時45分から始まります。

クラスとセミナーはどう違うの？

「クラス」は片方または両方とも信者の方々のための結婚講座で、「セミナー」は信者でない方々のための結婚講座です。両方とも5ヵ月間続きます。

アンケートの反響の多さに編集局一同大感激！

皆さんからアンケートをたくさんご返送いただきました。本当にありがとうございます。皆さんの感じたこと、望んでいることなどを知ることができ、今後の『One』作成にあたり、大変参考になりました。編集局で考えていた『One』の未来予想図と重なるようなご意見もあり、励まされると同時に、『One』の無限の可能性を改めて痛感しました。今後も、皆さんと共に歩み続ける『One』でありたいと思っています。これからもお便りをお待ちしております。

皆さん こんにちは、ボネットです
ちょっと厳しいことを言いますが、
一緒に考えてみませんか



皆さんはこういうことを知っていますか。世界では毎日、貧困が直接に生み出す原因によって3万5000人の子供たちが死んでいます。また、1億3000万人の子供たち(70%が女子)は初等教育を受けることができないといわれています。これは悲惨な現状の一部に過ぎません。非人間的な条件で働かされている子供たち、売春させられている子供たち(男も女も)もたくさんいます。私たちは、この現状が自分たちと関係のないもの、対岸の火事(向こう側の問題)であるかのように思いがちですが、本当にそうでしょうか。今の日本社会の流れ(宣伝による風潮)に乗せられ、食べ過ぎても、必要以上に浪費しても、多くのものを使い捨てても…「それは普通で皆がしている」ことであると思われていますが、一緒にちょっと考えてみませんか。私たちが消費する食料の50%以上は、他の国から輸入されています。そのうち、

バナナ、コーヒー、紅茶、エビ、とうもろこしなどは、貧しくて、人間としてふさわしい生活を送ることのできない人が多くいる国々からです。かれらは、非常に安い賃金、非人間的な労働条件で輸出のためのものを生産させられ、自分たちのものを作ることができないのです。食物のほかに衣類なども輸入されていて、私たちは安く買えますが、悲惨な状況でそれを作っている人々(子供も含めて)はたくさんいるのです。数多くの例を直視するなら、私たちの便利な生活、豊富な品物、消費しすぎて、使い捨てている現状は、多くの人々の貧困と非人間的な状況の上に成り立っていることに気がつきます。以上の現状にたいして、いったいどうすればよいのでしょうか。一緒に考えてみませんか。

私たち一人ひとりが無関心、無知でいると…、生活様式(買い過ぎ、過剰消費、捨て過ぎなど)を変えないと…、安く手にいれることによって過剰に得た分を返さないと…、オルタートレード(民間の非営利団体が行う貿易)の可能性を調べないと何も変わらないでしょう。一歩でも進んでみませんか。興味のある方は『飢餓と援助』(ビセンテ・M・ボネット著、新幹社)を読んでみてください。

ビセンテ・M・ボネット



聖イグナチオ教会ツアーガイド

このガイドを片手に訪ねてみよう 二人の思い出の場所を

1. 教会の歴史

今から48年前の1949年4月17日に行われた献堂式並びにミサをもって、麴町聖イグナチオ教会は誕生しました。実は1936年に建てられた聖テレジア教会がその前身でしたが、太平洋戦争末期に当時の防空法により建物強制取り壊しの通知を受けて聖堂は閉められ、翌1945年5月の大空襲の際に焼失しました。その後、上智大学内のクルトゥル・ハイム聖堂を仮の麴町教会として使用していましたが、終戦2年後には新聖堂つまり、現在の聖イグナチオ教会一の建設準備が開始されたのです。清水建設による工事は、戦災復興の時期ゆえに建設資材の調達に困難を極め、海外からの寄付、協力で助けられた部分が多くありました。こうして1年4ヵ月かけて完成した聖イグナチオ教会は、その誕生以来いくつもの歴史的な場面を見守ってきました。現天皇陛下、現皇太子殿下の御成婚の際は教会広場で奉祝歌を合唱し、現天皇陛下のご出席のもとにケネディ大統領の追悼ミサが行われ、マザ



1949年4月17日 献堂式の模様

ー・テレサによる講演会を催し、コール首相、前ワレサ大統領などの現代のリーダーたちや女優のブルック・シールズさんも度々ミサに与りました。そして教会は、毎年たくさんの新しいのちを迎え入れ、天国への旅立ちを見送り、復活祭、七五三、クリスマス、お正月などの節目には人々の気持ちを新たに、勇気づけてきました。また、私たちのように夫婦としてこの教会で祝福され、新しい人生を踏み出したカップルの数は知れません。その聖堂が新しい聖堂に替わって、来年姿を消そうとしています。しかし、もし建物にも魂があるとすれば、それは人々がこの教会を愛し訪れる限り、永く生き続けるでしょう。

2. パイプオルガン

2400本のパイプが織りなす無限の音楽宇宙

厳粛な結婚式を音楽で支える



結婚式でオルガンを弾く坪川裕子さん

1960年にオランダのフェルシュレーン社製のパイプオルガンが設置されました。約2400本にも及ぶパイプは、長い年月を経て、今では柔らかい音を奏でています。また丸いステンドグラスがよく見えるようにとオープンスタイル（パイプが箱に収められていないシステム）になっているのも特徴のひとつです。

「結婚式では、司祭・新郎新婦・親族・そして参列者の皆さんとできるだけ調和して一体になれるよう心をこめて演奏しているつもりです。式の後に皆さんに喜んでもらえたときわかったときは、やはり嬉しいですね。」教会のオルガニスト坪川裕子さんのオルガンへの想いはとても深いと感じられました。残念ながらこのオルガンは新聖堂に再現されませんが、坪川さんは新しい楽器には、現在よりもさらに多くの人に気に入ってもらえるようにと期待を寄せています。

思い出の結婚式を彩ってくれたあのオルガンの音色をもう一度肌で感じてみませんか。(見取り図⑩)



パイプオルガンと聖イグナチオ・デ・ロヨラのステンドグラス。この丸いステンドグラスは今後も教会のシンボルとして中聖堂に残ります。

「教会の建物はたくさんの祈りがこもった思い出多き場所」

渡部栄一さん



「台風で塔屋の一部が飛んで補修したこともあるんですよ。」と、当時を懐かしむように語ってくださったのは、教会敷地内のテレジアホールや案内所などの建設をなさった経験のある渡部栄一さん。セミナーのヘルパーもされ、新聖堂の建設委員会のメンバーでもある渡部さんは、現聖堂が解体されることについて、「教会の象徴だった円形のステンドグラスが、今の場所に見られなくなるのは、そりゃあ寂しいですよ。しかし、失うものに執着するより、失うことによって得ることもたくさんあること、そこに喜びを見出せるように心掛けたいものですね。」と、現在の聖堂に思いを寄せつつ、新聖堂の建設にむけての前向きなお話を聞かせてくださいました。

“イグナチオ”って、どういう意味？

聖イグナチオ教会の“イグナチオ”というのは、聖イグナチオ・デ・ロヨラというスペインの聖人の名前から頂いています。彼は当教会を運営するカトリックの修道会であるイエズス会を創立（1540年）し、日本に最初にキリスト教を紹介した聖フランシスコ・ザビエルをわが国に派遣した人物です。英語のignition（点火）と同じく「イグナチオ」はラテン語のignis—火—を語源とする名前で、「燃える火」を意味しています。その名のように、聖イグナチオの燃えるような意志を反映して、自分を必要とする場所ならいかに遠くても赴き、そこの人々に仕えることを旨とするのがイエズス会の最大の特徴です。



St. Ignatius de Loyola (1491-1556)

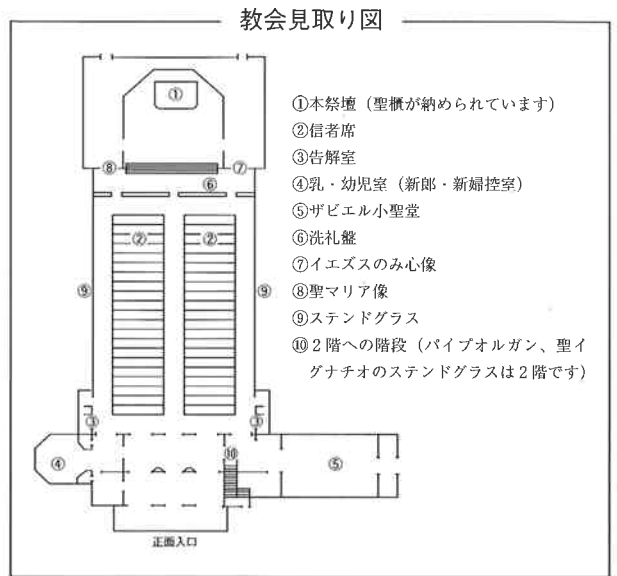
3. ステンドグラス



写真左から順に
キリストの降誕
最後の晩餐
十字架につけられる



イエス 聖母に会う



- ①本祭壇 (聖櫃が納められています)
- ②信者席
- ③告解室
- ④乳・幼児室 (新郎・新婦控室)
- ⑤ザビエル小聖堂
- ⑥洗礼盤
- ⑦イエズスのみ心像
- ⑧聖マリア像
- ⑨ステンドグラス
- ⑩2階への階段 (パイプオルガン、聖イグナチオのステンドグラスは2階です)

「ステンドグラスを見ると、生きる喜びを与えられるよ！」
ブラザー・マヌエル・エルナンデス



イグナチオ教会には多くのベルギー製ステンドグラスが設置されています。教会のシンボルともいえる、聖堂後方にある大きな円形のステンドグラスは、聖イグナチオ・デ・ロヨラの肖像です。聖堂正面の本祭壇の上にある7枚は、向かって左から順にキリストの生涯を表したものです。信者席左右にある下段の14枚は、キリストが死刑の宣告を受けてから十字架上で亡くなるまでを描いています。他にもまだ美しいものがたくさんあります。外が明るいうちに、聖堂に入ってぜひご覧ください。結婚式のリハーサルでお世話になったブラザー・エルナンデスに一枚一枚丁寧にステンドグラスの説明をして頂きました。「ステンドグラスは生きる喜び、悲しみ、栄光…人生を表しています。家族の楽しさ、苦しさ…、キリストの教えを伝えます。人生は全部はうまくいきません。ステンドグラスを見ると、気持ちが安らぎ、落ち着きます。」いつも明るく、ユーモア溢れるブラザーの元気のもと、ここにあるのかもかもしれません。(見取り図⑨他)



今回は、ヘルパーとして最も長く活躍されている加藤ご夫妻にお会いし、お話を伺いました。将棋の元名人で現在もご活躍中のご主人と、いかにも包容力のある温かい感じの陽気な奥様は、現在の結婚セミナーの原型である「ともしび会(1982年)」から、これまで17回と数多くヘルパーをなさっていらっしゃいます。「セミナーが誕生した頃はお手本がなかつたので苦労しました。当時は、結婚後、専業主婦になれる女性が多く、世の中もそのような風潮でしたが、最近では仕事を続けられる方が増え、それに伴って私たちのアドバイスも変わってきました。でもなんといっても嬉しいのは、『One』を作ってくださる皆さんのように、修了者の方たちがいろいろな意味で教会とつながりを持ち続けてくださる事です。」

4. 聖櫃 (せいひつ)

現在の聖櫃(聖堂の中央にある、聖体と呼ばれる丸い形の小さなパンが収められている入れ物)は1966年に祭壇が改造された時に納められました。前面に刻まれている十字架とギリシャ文字は、ローマ帝国でキリスト教を公認したコンスタンティヌス皇帝が、ある戦いで天に幻の十字架を見て、この十字架を軍旗に刻みこむことにより勝利を得た、という話に由来しています。文字は「この印で勝つ」という意味を示しています。新聖堂内の資料室に保管される予定です。(見取り図①)



聖櫃

5. 洗礼盤

洗礼の時に使用する水が入っています。以前は新郎・新婦控室(かつては洗礼室)に置かれていました。現在はイエズスのみ心像の前に置かれています。新聖堂では地下のクリプタ(納骨堂)につながる階段の下に移転される予定です。(見取り図⑥)

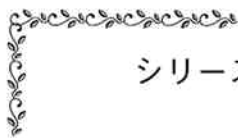


洗礼盤

シリーズ

お世話になったヘルパー紹介

加藤^{ひふみ}_{一二三}・^{きよ}_{紀代} ご夫妻



見上げてごらん、夜の星を… ☆ ☆ ☆



結婚4年目の本田さんご夫妻は、星の観察という趣味を二人で分かち合っています。平均すると月に一度、星のよく見える所まで車で出かけるそうです。「学生時代と同じ天文学サークルに所属してい

たのが出会いのきっかけなんです」と雅子さん。「結婚前から分かち合っていた趣味ですが、初めて二人だけで星を観に行ったのは結婚してからです。」その時訪れたのが、星を観る人たちにとっての聖地といわれる長野県・乗鞍岳。これまで観た中でも最も美しい星空で、以来何度もここを訪れているそうです。タヒチ周辺の島々を客船で廻る新婚旅行でも甲板から二人で星を眺めたそうですが、天文学というテーマで最も遠くまで行ったのが、95年10月に日食を観

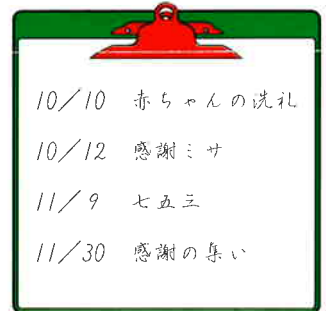
百武彗星(96年3月・那須塩原高原にて/撮影:本田智之さん)に行ったタイのナコンサワン州。そして将来いつか行ってみたいのが、オーストラリアのエアーズロック。智之さんによると、星を観るための最適な環境とは、空気が乾いていて、標高が高いこと。世界一大きな岩の周辺には街灯もなく、沙漠だけに空気が乾燥しています。星の光があまりにも明るいため、人の影が映し出されるのだそうです。静かな夜、星を観察する仲の良い二人の影が、大地に映るシーンが想像できます。

教会からのお知らせ

参加してください
イグナチオ教会の素敵なイベント



- 7月31日(木) 聖イグナチオ祝日18:00(歌ミサ)
- 8月9日(土) 平和祈願祭 於 千鳥ヶ淵
ミサ17:30
- 8月15日(金) 聖母被昇天ミサ
6:00、7:00、8:00、
9:30、10:45
12:00(英語)、13:15
(スペイン語)、18:00
(歌ミサ)
- 9月20日(土) イエズス会叙階式 14:00
- 10月10日(金) クラス修了者 赤ちゃんの洗礼 14:30
- 10月12日(日) 結婚感謝ミサ クラス
修了者対象 14:45
- 11月9日(日) 七五三 14:45
- 11月30日(日) 結婚感謝の集い セミ
ナー修了者対象 14:45



- 10/10 赤ちゃんの洗礼
 - 10/12 感謝ミサ
 - 11/9 七五三
 - 11/30 感謝の集い
- *お宮参り…神父様から祝福を受けることができます。クラス/セミナー指導の神父様または教会の神父様と日時のお約束をお取りの上お見ください。
*教会でも七五三を祝います。11月9日(日)14:45どなたでも参加できます。申し込み不要
*土曜学校…信者の小学生対象
毎土曜日14:15~16:30
*日曜学校…洗礼を受けていない4歳児以上対象
毎日曜日13:30~16:00

聖イグナチオ教会に関する資料の紹介

- 今回の特集作成では下記の書籍・ビデオを参考にしました。
- (1) 写真集『巨きな木の舟 聖イグナチオ教会』
聖イグナチオ教会献堂45周年記念写真集刊行委員会(1992年)
(聖イグナチオ教会に関する年表付き)
 - (2) 『聖イグナチオ教会 二十五年史』
伊藤 保編集/聖イグナチオ教会(1974年)
※以上の2冊に関しては教会受付までお問い合わせください
 - (3) 『聖イグナチオ・デ・ロヨラ
—16世紀の偉大な巡礼者—』
中川浪子著/中央出版(1993年)
 - (4) 『聖フランシスコ・ザビエルの師 聖イグナチオ』
パウロ・フィステル著/中央出版(1983年)
 - (5) 『目で見ると聖イグナチオ・デ・ロヨラの自叙伝』
A.エバンヘリスタ著・佐々木孝訳/新書社(1991年)
 - (6) 『イエズス会 世界宣教の旅』
フィリップ・レクリヴァン著・鈴木宣明監修/創元社(1996年)
 - (7) ビデオ『ハヤット神父 神の騎士 聖イグナチオ・ロヨラ』
制作協力:NTV映像センター/発売元:心のともしび運動(1993年)

編集後記

今回は第2回目ということで編集の能率もだいぶ良くなりました。方針検討・取材・記事作成・編集、皆がそれぞれ役割を分担し、情報交換はインターネットを使って…。気分はちょっとした新聞社?! これからも充実した内容の紙面にしていきたいと考えております。編集業務に興味をお持ちの方は是非ご連絡ください。(詳しくは右をご覧ください)皆さんで楽しい『One』を作っていきましょう。また、今回も取材に応じてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

編集局一同

皆さん必ず見てね!

- 編集局員募集!
別添アンケートにお答えください。前回のアンケートと合わせて編集局で検討の上、ご連絡させていただきます。編集に関して詳しい話をお聞きになりたい方は遠慮なく下記編集局へご連絡ください。
- 住所変更はご一報!
挙式後に住所変更のある方、または変更された方をご存じの方は、教会事務所の内田宛にお知らせください。なお、ご連絡の際には挙式年月日もお忘れなく。
- お待ちしています!
・仲間に伝えたい素敵な話
・こんなことで悩んでいます
・編集局へのご要望/励ましのお便り
……等々

主な編集参加者

- | | |
|----------|-------|
| 福富 達夫 | 北見 弘美 |
| 藤枝 雅幸/香織 | 林 彰 |
| 養口 達伸 | 鈴木 肇 |
| 山本 浩 | |

発行 聖イグナチオ教会 結婚委員会
(担当/城間 正人・鈴木 庸子)

ご意見・記事投稿・アンケート返送は下記までお願いします。
〒102 東京都千代田区麹町6-5
聖イグナチオ教会 One編集局
TEL : 03-3263-4584
FAX : 03-3263-4585